



2040 年度新設住宅着工数は 46 万戸！野村総合研究所

今月から働き方改革で残業時間規制などが始まり、運送業や建設業で人手不足等、かなりの混乱が予想されています。又先般、日銀が「マイナス金利政策」を解除しました。緩やかな変更という事ですが、我々零細企業への影響も懸念されます。春闘では大手企業の満額回答があり、2月の日経平均株価が34年ぶりに最高値を更新したこと等で景気は回復基調にあると言われますが、なかなか実感できません。

野村総研が21年6月発表した新設住宅着工数予測をみると、21~23年はほぼ予想通りの着工数でした。24年は78万戸と4万戸ほど減少する予測です。現状の住宅コストの上昇とそれに伴う住宅ローン審査の厳格化、若い世代の住宅取得意欲の減退など、現状の着工減を考えると頷けます。また、30年には65万戸、40年には46万戸まで減少すると予測しています。難しい時代になりそうですね。

新設住宅着工数の中でも持家は2年以上前年同月比減少が続いている。こんな中、住宅や非住宅向けのプレカット受注量が3月は前月比でわずかながらプラスに持ち直した(前年同月比横ばい)。今後の受注動向に期待したいものです。

一方リフォーム市場は40年度まで微増ないし、横ばい傾向が予測されています。プレカットも今後はリフォームでしょうか？

ZEH住宅は今後も順調に増加する予測ですが、今年度(24年)をピークに増加率が鈍化するかもしれません。従って「社会資本整備審議会」で示されている30年度までのZEHストック量の政策目標達成には遠く及ばない見込みです。

最近の県内における木材の動向は、原木はバイオマスや輸出(円安の恩恵)の影響で一定の価格を維持しています。一方、製材品は荷動きが少なく、在庫が増え、製材工場は厳しい状況です。プレカット業界も稼働率は落ちています。従って、一般材の製材品市場のみならず役物市場も閑散としています。今後、木材業界はどうなるのか不安です。

【情報】

森のスギ小屋が完成しました！

鹿児島県と南九州市から援助を受けて、「森と木の研究所」が、森のかわなべ敷地(森林馬事公苑)内に、昨年11月から建設していた「森のスギ小屋」(活動拠点)が完成しました。「子どもの森づくり」等、子供が森の遊びを楽しみながら自然を体験できます。

(雨天時でも活動出来ます)

【定休日】

4月は6, 7, 13, 14, 20, 21, 27, 28日

5月は3, 4, 5, 11, 12, 18, 19, 25, 26日となります

宜しくお願いします



森のスギ小屋 (屋根も杉板)

(お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで)